

The background features a repeating pattern of stylized, colorful flowers and clouds. The flowers are in various colors including purple, blue, green, orange, and pink, with some having multiple layers of petals. The clouds are simple, white, rounded shapes. The overall color palette is warm and pastel, set against a light beige background.

# 妙輪寺 信行要典

ご自由にお持ち帰りください

# 妙輪寺 縁起

延文元年（一三五六年）この地の真言寺主は鎌倉比ヶ谷妙本寺・池上本門寺両山の三世である大経阿闍梨日輪聖人（日蓮聖人池上入滅の際、兄経一丸と共に稚児として仕えた亀王丸）と大いに宗義を論じたがついに信順して宗を改め寺を聖人に献上した。

翌延文二年（一三五七年）聖人は方駕を今のこの地に進め四月開堂して説法をなされ福聚山妙輪寺（当山）と号した。また永聖跡（寺格）として今日に至る。

開山日輪聖人の母は妙朗尼であり、尼の父は印東領主印東次郎左衛門尉藤原祐照といひ母は工藤祐経の娘である。

当山 日蓮聖人像は 疮瘡身代り守護の像といわれた。現在も病氣身代り守護の像として祈願参詣が多い。徳川時代は紀州家の姫が度々宿泊し、また江戸城の奥女中の参詣が多かった。

# 法華経の教え

仏教のエッセンスがつまった  
人生の良薬 - 法華経

お釈迦さまの教え（言葉）をまとめた「お経」の数は、「八万四千」といわれています。その中でも、日蓮宗が一番大切にしている教えが「妙法蓮華経」（法華経ともよばれます）です。

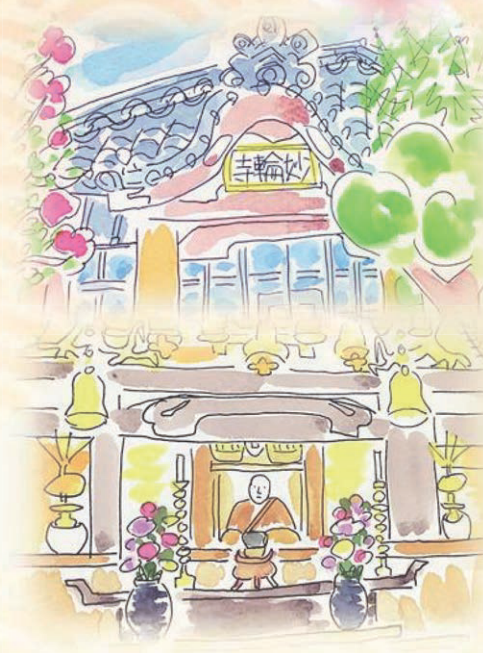
この法華経には、お釈迦さまの本当の心があらわされており、すべてのお経が含まれています。まさに、この世をイキイキと生きるための仏教のエッセンスがたくさんつまった「**教えの集大成**」とも呼べるものです。

日蓮宗の宗祖・日蓮聖人は、法華経こそが困難な時代を生きるあらゆる人々を救う最も尊いお経であると、説き続けられました。

天保七年（一八三六年）北下横丁大工半七火元にて宿内大半焼失、自他十一寺焼した。その後仮建物で過ごし明治末に現本堂は再建されたものである。

古文書と仏像の一部は災をまぬがれて特に当山二世である日向（真言寺主）に授けた開山日輪聖人真筆曼荼羅が現存し日輪聖人像（徳川中期 池上本門寺宝蔵より移した）も保存されている。

境内にある熊王稻荷は、大磯宿商売繁盛の守護神として伝わる。



法華経は諸経の王とも言われ日本に仏教が伝わってまもなく、聖徳太子が法華経の解説書を書かれています。

また、中国の智者大師は法華経によって天台宗を開き、日本の最澄はこれを伝えて天台法華宗を開きました。日蓮聖人はその法華経に独自の解釈をほどこして日蓮宗を創りました。

妙法蓮華経は二十八品からなります。品（ほん）というの章のことで、二十八章から構成されているということです。

法事等では、法要等の趣旨に合わせて読み上げのお経を選びます。なぜならば二十八品全て読経するとなると、数時間かかってしまうからです。

しかし、どのような法要でも

「如来寿量品第十六」（十六章）は、法華経の中で最も重要なお経なので、必ず読み上げます。



にちれん だいしようにん

# 日蓮大聖人

(一一二二〜一二八二)

日蓮宗宗祖・末法有縁の大導師



日蓮は鎌倉幕府中期の僧で、日蓮宗を開いた。日蓮は承久四年安房国小湊（現在の千葉県鴨川市天津小湊）に生まれた。

比叡山、高野山などで修業を積み、法華經にこそ仏教の神髄があるという信念を持ち、建長五年、政治不安や天災に苦しむ社会を救おうと、鎌倉にやって来た。

当時の鎌倉は、禅宗や念仏宗の信者が多かった。日蓮は、松葉ヶ谷に小さな草庵を建てそこから鎌倉の町の辻に立ち、説法でこれを激しく論じた（辻説法）。

にちりん しょうにん

# 日輪聖人

(一二七二〜一三五九)

妙輪寺開創・日蓮大聖人の孫弟子



池上・比企両山三世、大経阿闍梨 日輪聖人とよばれる。九老僧の一人。文永九年（一一二七）に下総国葛飾郡風早庄平賀郷で生まれた。兄は九老僧の日像。

日像は文永一二年に七歳で日朗の門に入り身延にのほって日蓮聖人に仕えた。五歳になった弟の日輪は父と身延の聖人を訪ね、兄の給仕にはげむ姿をみて出家を志したという。

弘安七年（一二八四）日像が日朗のもとで剃髮得度式を挙げた。同席した日輪はこれに感激し、同日日朗の門に投じた。

中でも、其の著「立正安国論」では誤った教えに惑わされていく世間と、それを許している幕府を強く批判した。

日蓮は「立正安国論」を、幕府の実力者北条時頼に提出した。時頼は黙殺したが念仏者達が怒り、日蓮の草庵を焼き討ちした。

日蓮は伊豆へ流されたが、後に許され鎌倉に戻る。当時鎌倉は元（モンゴル）による侵略の危機が高まっており、日蓮の立正安国論の予言が的中した様になった。

文永八年、再度「立正安国論」を幕府に差し出したことから執権北条時宗によって処刑されかかるが処刑の難を逃れ佐渡へ流された。三年後、日蓮は身延山へ入山する。最後の九年間身延山で過ごし、法華經を末法万年に伝える人材の養成に務めた。

日蓮はどんな弾圧にも屈せず、権力者に迎合することなく、最後まで民衆のために戦った法華經の行者である。

文保二年、日朗から鎌倉比ヶ谷妙本寺と池上本門寺両山の貫首職を付与された。朗門九鳳とよばれる俊秀のなかで、最年少の日輪が後継者の指名をうけたことは、日朗と俗縁があったとする説や、名門平賀氏の出自ということにもよろうが、なによりも智行兼備の名僧に成長していたからであろう。両山の貫首になってからも、学問の研鑽はもちろん、門下真俗の教導に大きな足跡を残した。

延文元年、現在の大磯町に位置する真言寺主は、日輪聖人と大いに宗義を論じたがついに信順して宗を改め寺を聖人に献上した。翌延文二年（一三五七年）聖人は方駕を今のこの地に進め、四月開堂して説法をなされ、福聚山妙輪寺と号した。また永聖跡（寺格）として今日に至る。

妙輪寺本堂に安置されている日輪聖人筆大曼荼羅本尊は、日輪聖人開創の寺院で日輪聖人の本尊を伝えている唯一の寺院である。

# 日蓮宗の法要

法要の流れは？ 意味は？

日蓮宗の法要の基本的な構成は

〔声明〕 〔読経〕 〔唱題〕 から成ります。

## 〔声明〕

お経に節をつけた仏教音楽の一つ。まるで歌のようにお唱えします。特に法要の最初と最後にお唱えします。

## 〔読経〕

妙法蓮華経の二十八章の中から、その法要の趣旨に合わせ、お経を選び読み上げます。

## 〔唱題〕

お題目である南無妙法蓮華経を何度もお唱えします。合掌して心を込めてお唱えしましょう。

## 〔道場偈〕

この道場（本堂）に仏様が姿を現してくださることを念じ歌う声明。

## 〔勧讀〕

仏様がいつでもこの世におられて人々を教え導いて下さるようをお願いする願文。勧讀は導師が独唱する。

## 〔開経偈〕

お経を読む前に拝読する偈文。法華経に出会えた奇跡と喜びを表す。

## 〔読経〕

法要の趣旨に合わせ法華経二十八章からお経を選び読経する。方便品第二と寿量品第十六はどの法要でも読み上げる。神力品第二十一は男性の仏様、提婆品第十二は女性や動物の仏様のご供養で読み上げる。

## 〔祖訓〕

法要の趣旨に合わせて日蓮聖人のご遺文の一節を選び拝読する。

## 法要の式次第

一、	道場偈	七頁
一、	勧讀	九頁
一、	開経偈	十一頁
一、	読経	十三～三十頁
一、	祖訓	三十三頁
一、	唱題	三十五頁
一、	宝塔偈	三十五頁
一、	回向	三十六頁
一、	祈願	三十六頁
一、	四誓	三十八頁
一、	奉送	八頁

## 〔唱題〕

「南無妙法蓮華経」と繰り返しお唱えする。日蓮宗で最も大切に重要な修行

## 〔宝塔偈〕

「見宝塔品第十一」の偈文。法華経を信仰するのは難しいが、信仰する事によって諸天善神が褒め給われる事を説く。

## 〔回向〕

法華経の功德を、ご供養している仏様のために「回し向ける」こと。導師独唱。

## 〔祈願〕

参拝された檀信徒のために身体健全、家内安全、開運除災等の御祈願をする。

## 〔四誓〕

人々を救う、道を求める等の四つの誓いを唱える。

## 〔奉送〕

諸仏諸尊をお送りする声明。

# 声明

諸天善神に奉納する

仏式ゴスペル

諸天善神をお招きする声明

道場 偈

我此道場如帝珠

十方三寶影現中

我身影現三寶前

頭面攝足歸命礼

声明はお経に節をつけた仏教音楽の一つなので、歌うように唱えます。声明の出だしは、低い音程から徐々に上げる「押し出し」という方法で唱えます。文字の横にある線(墨譜)は音の上げ下げを表します。(ユリ)音を揺らすように音を瞬時に上下させる。低い音から直ぐに高い音へ移る。(エンバイ)なめらかに音を下げる。音をなめらかに低音まで下げる。

仏法僧の三宝に礼拝する声明

三寶礼

一心敬礼十方一切常住佛

一心敬礼十方一切常住佛法

一心敬礼十方一切常住僧

華を散らして道場を荘厳するための声明

切散華

欲說法華經付香華供養佛

大哉大悟大聖主付香華供養佛

願以此功德付香華供養佛

「付」と書かれているところでは引金(おりん)をちんと鳴らします。



三宝に各本土に還帰して戴く事を讀う声明

奉送

唯願諸聖衆決定証知我

各到随所安後復垂哀赴

撒かれた華葩(紙でできた花びら)は御守りにもなりますので、ご自由にお持ち帰りください。



# 勸請

諸天善神をお招きする  
ウエルカムメッセージ

法要を始める前に、諸天善神やご先祖様を本堂へお招きする願文です。お釈迦様、お釈迦様の弟子、様々な神様、菩薩様、日蓮聖人、妙輪寺歴代住職、あなたのご先祖様等をお招きします。この願文は導師の独唱となりますので、皆様は心の中でこの願文を念じて、諸天善神をお招きして下さい。

謹んで勸請し奉る 南無輪具足未曾大曼荼羅ご本尊

南無平等大慧 一乗妙法蓮華経 南無久遠実成大恩

教主本師釈迦牟尼仏 南無證明 法華多寶大善逝

南無十方分身三世の諸佛 南無上行 無邊行 淨行

安立行等 本化地湧の諸大士 南無文殊 普賢 彌勒

薬王 薬上 勇施 妙音 観音等 迹化他方來の大權の薩

南無身子 目連 迦葉 阿難等 新得記の諸大聲聞

一乗擁護の諸天善神 総じては法華経中 常住一切の

三宝殊には末法有縁の大導師高祖日蓮大菩薩

六中九老僧等 宗門歴代 如法勲功の先師先哲

福聚山妙輪寺開山 大経阿闍梨日輪聖人以来歴代の

諸上人並びに○○家先祖代々の諸精霊 当山勸請の

善神の御宝前に於いて 本日主旨奉る処○○回忌に

相値処○○靈位 来到道場 知見照覧 御法味納受

# 開経偈

法華經に出会えた

奇跡に感謝感激

開経偈は、お経を読む前に拝読する偈文です。法華經に出会えた奇跡と、何度生まれ変わっても法華經に出会えますようにと願う内容となつています。開経偈の「偈」とは、仏や仏の教えをほめたたえる韻文体の經文を言います。詩のようなものです。開経偈は日蓮宗だけではなく様々な仏教宗派でも読み上げます。

むじようじんじんみみよう

ほう

ひやくせんまんごう

無上甚深微妙の法は、百千万劫にも

あ

遭いたてまつること難し。

かた

われ

いまけんもん

我れ今見聞し

じゆじ

受持することを得たり。

ねが

にょらい

願わくは如来の

だいいちぎ

げ

第一義を解せん。

しごく

だいいじよう

しぎ

至極の大乗、思議すべからず

けんもんそくち

見聞触知、皆菩提に近づく。

ちか

のうせん

能詮は報身。

しよせん

所詮は法身。

しきそう

もんじ

色相の文字は、

すなわ

こ

おうじん

即ち是れ応身なり。

むりよう

無量の功德、

みなこ

きよう

あつ

皆是の經に集まれり。是故に自在に、

みよう

冥に薰じ密に益す。

うちむち

つみ

有智無智、罪を滅し善を生ず。

もし

若は信、若は謗、

とも

共に佛道を成ぜん。

さんぜ

三世の諸佛、

じんじん

みようでん

甚深の妙典なり。

しょうじようせせ

生々世々、

ちぐ

値遇し頂戴せん。

ちようだい



開経偈では「思議すべからず」まで合掌し「見聞触知」で經本を両手で持ち、目の高さまで上げる。そして「値遇し頂戴せん」の時に頭を軽く下げて上げていた經本を降ろす。これを「頂経」(ちようきよう)と呼ぶ。

妙法蓮華經 方便品第二

みようほうれんげきよう

ほうべんぼん

だいに

にーじーせーそん じゆうさんまい あんじようにーきー ごうしゃりほつ しゃーぶつちーえー  
爾時世尊 従三昧 安詳而起 告舍利弗 諸仏智慧

じんじんむーりよう ちーちーえーもん なんげーなんにゆー いっさいしようもん ひやくしーぶつ  
甚深無量 其智慧門 難解難入 一切声聞 辟支仏

しよーふーのうちーしよーいーしゃーがーぶつぞうしんごん ひやくせんまんのくむーしゆーしよーぶつ  
所不能知 所以者何 仏會親近 百千万億 無数諸仏

じんぎよーしよーぶつ ぶつむーりよーどうほーゆうみようしようじん みようしようふーもんじようじゆーじんじん  
尽行諸仏 無量道法 勇猛精進 名称普聞 成就甚深

みーぞーうーほー ずいぎーしよーせつ いーしゆーなんげー しゃりほつ ちーじゆーじようぶつちーらい  
未曾有法 随宜所説 意趣難解 舍利弗 吾從成仏已來

しゆーじゆーいんねん しゆーじゆーひーゆー こうえんごんきよう むーしゆーほうべん いんどうしゆーじよー  
種種因縁 種種譬諭 広演言教 無数方便 引導衆生

りようりーしよーじやく しよーいーしゃーがー によーらいほうべん ちーけん はらみつ  
令離諸著 所以者何 如来方便 知見波羅蜜

かいいー ぐーそく しゃりほつ によーらいちーけん こうだいじんのもん むーりようむーげー  
皆已具足 舍利弗 如来知見 广大深遠 無量無礙

りき むーしよーいー ぜんじよう げーだつ さんまい じんにゆーむーさい  
力 無所畏 禪定 解脱 三昧 深入無際

じようじゆーいっさい みーぞーうーほー しゃりほつ によーらいのうしゆーじゆーふんべつ  
成就一切 未曾有法 舍利弗 如来能種種分別

ぎようせつしよーほー ごんじーにゆーなん えつかーしゆーしん しゃりほつ しゆーよーごんしー  
巧説諸法 言辞柔軟 悦可衆心 舍利弗 取要言之

むーりようむーへん みーぞーうーほー ぶつしつじようじゆー しー しゃりほつ  
無量無辺 未曾有法 仏悉成就 止 舍利弗



ふしゆぶせつ しょいしゃが ぶつしよじょうじゆーだいいちけうー なんげしーほー  
不須復説 所以者何 仏所成就 第一希有 難解之法

ゆいぶつよぶつ ないのくーじん しょほうじつそう  
唯仏与仏 乃能究竟 諸法実相

以下を三回繰り返す

しよーいしよーほう によぜーそう によぜーしよーたい によぜーりき によぜーさー  
「所謂諸法 如是相 如是性 如是体 如是力 如是作

によぜーいん によぜーえん によぜーかー によぜーほう によぜーほんまつくーきようとう

如是因 如是縁 如是果 如是報 如是本末究竟等」

法華經の第二章である方便品は、法華經前半部分の最も大事なところで、誰もが仏になることができるかと説かれています。ここでお釈迦さまは、仏の悟りは凡人には理解しがたいと説かれます。それに対してお弟子の舍利弗がそれでもお説き下さいとお願いされます。そこで説かれたのが十如是の一念三千という教えでした。十如是とは、物事のありさまを指し、十如・諸法実相とも呼ばれます。天台大師は、ここから仏法の極理である一念三千という教学をたてました。日蓮宗では、「空・仮・中」の三諦の意味をこめて三回繰り返して読誦します。

# 妙法蓮華經 提婆達多品第十二

ふか ざいふく そう たつ あまねー じつほう  
深く 罪福の 相を 達し いて。 遍く 十方を

てら みーみよう きよ ほっしん そう  
照し いた もう。 微妙の 浄き 法身。 相を

く さんじゆうにー はちじつしゆーそう もつ  
具せる 一と 三十二。 八十種好を 以て

も ほっしん しょうぜん てんにん たいごう  
用つて 法身を 莊嚴せ たり。 天人の 戴仰

ところー りゆうじん ことごと くーげまう いっさいしゆーじよう るい  
する所。 龍神も 咸く 恭敬す。 一切衆生の 類

宗奉せざる一者なりし。又聞いて一菩提を

成ずるこゝと。唯仏の一み。當に一証知

したもうべし。我大乘の一教を一闡いて。

苦の衆生を一度脱せん。

爾の時に一舍利弗。龍女に一語つて一言わく。

汝久し一からずして。無上道を一得たり

と一謂えり。是の事信じ一難し。所以は

何ん。女身は一垢穢に。して一是れ一法器に

非ず。云何ぞ一能く。無上菩提を一得ん。

仏道は一懸曠なり。無量劫を一経て。

勤苦して一行を一積み。具さに一諸度を

修し。然して一後に一乃ち一成ず。

また一女人の一身には。猶五の一障り

あり。一には一梵天王と一なることを一得ず。

二には一帝釈。三には一魔王。四には一轉輪聖王。

五には一仏身なり。云何ぞ一女身。速かに

成仏することを得ん。爾の時に龍女一つの一

宝樹あり。価直三千大千世界なり。

持て以て一仏に上る。一仏即ち之を

受けたもう。龍女。智積菩薩。尊者舍利弗に

謂て言わく。我宝樹を献る。世尊の

納受。是の事疾しや。不や。答えて

言わく。甚疾し。女の言わく。汝が

神力を以て。我が成仏を觀よ。

復これよりも速かならん。當時の衆会。

み一な龍女の忽然の間に。変じて

男子と成つて。菩薩の行を具して。

即ち南方無垢世界に往いて。宝蓮華に

坐して等正覺を成じ。三十二相。八十種好

あつて。普く十方の一切衆生の為に。

妙法を演説するを見る。爾の時に娑婆

世界の。菩薩。声聞。天龍八部。人と非人と。

みーなーはる

かー

りゆうによー

じょうぶつ

あまねー

皆遙かーに彼のー龍女のー成仏しーてー。普くー

時ときのー会えーのー人天にんでんのー為ためにー。法ほうをー説とくをー

見みてー。心こころ大おおいーにー歡喜かんぎしーてー。悉ことごとくー遙はるかー

にー敬きよう礼らいすー。無量むりようのー衆生じゅうじよう。法ほうをー聞きいてー

解悟げごしー不退ふーたい転てんをー得えー。無量むりようのー衆生じゅうじよう。道どうのー

記きをー受うくるーことをー得えたりー。無垢むくせー世界かい。

六反ろっぺんにー震しん動どうすー。娑婆しゃばせー世界かいのー三千さんぜんのー衆生じゅうじよう。

不退ふーたいのー地ちーにー住じゅうしー。三千さんぜんのー衆生じゅうじよう。菩ほー提だい心しんをー

発おこしーてー。授じゆき記きをー得えたりー。智ちしやくー積ほさつー菩およ薩およ。及およびー

舍利弗しゃりほつ。一切いっさいのー衆会しゅうえー。默然もくねんとーしーてー信受しんじゆーすー。

提婆達多だいばだつたほん品の内容は、当時大乘仏教が直面した二つの問題、悪人成仏と女人成仏です。

まずお経の前半において、お釈迦様を何度も殺害しようとした極悪人である提婆達多が、実はお釈迦様にとってはかけがえのない善知識という、大切な存在であったとする

過去世の物語が説かれています。そして、提婆達多に天王如来になるという成仏の授記（お釈迦様が弟子に成仏の予言をすること）がなされて、どんな悪逆な者も仏の慈悲に

漏れることはないことが明らかにされています。これに続いて、後半においては、八歳の龍王の娘が法華経の教えによって成仏することができたという龍女成仏を説くことに

よって女人成仏が示されています。提婆達多品は女性のための法事、動物のための法事、餓鬼道に落ちてしまったものための法事（お施餓鬼）で読まれることが多いです。

みようほうれんげきよう

によらい

じゆりよう

ほん

だいじゆうろく

# 妙法蓮華經 如来寿量品第十六

じーがーとくぶつらい

しよーきようしよーこつしゆー

むーりようひやくせんまん

おくさいあーそーぎー

じようせつほうきようけー

むーしゆーおくしゆーじよう

りようにゆうおーぶつどう

にーらいむーりようこう

いーどーしゆーじようこー

ほうべんげんねーはん

にーじつふーめつどー

じようじゆうしーせつほう

がーじようじゆうおーしー

いーしよーじんずうりき

りようてんどうしゆうじよう

すいごんにーふーけん

しゆーけんがーめつとー

こうくーよーしやーりー

げんかいえーれんほー

にーしよつかつこうしん

しゆーじようきーしんぶく

しちじきいーにゆうなん

いっしんよくけんぶつ

ふーじーしゃくしんみよう

がーぶーおーひーちゆう

いーせつむーじようほう

によーとうふーもんしー

たんにーがーめつとー

いーほうべんりきこー

げんうーめつふーめつ

よーこくうーしゆーじよう

くーぎようしんぎようしゃー

がーがーぎゆうしゆーそう

くーしゆつりようじゆーせん

がーじーこーしゆーじよう

じようさいしーふーめつ

がーけんしよーしゆーじよう

いーせつむーじようほう

によーとうふーもんしー

たんにーがーめつとー

いんごーしんれんほー

ないしゆついーせつほう

じんずうりきによーぜー

おーあーそうぎーこう

じようざいりようじゆーせん

ぎゆーよーしよーじゆうしよー

しゆうじようけんこうじん

だいかーしよーしよーじー

がーしーどーあんのん

てんにんじようじゆうまん

おんりんしよーどうかく

しゆーじよーほうしよーごん

ほーじゆーたーけーかー

しゆーじようしよーゆうらく

しよーてんきやくてんくー

じようさーしゆーぎーかく

がーしーどーあんのん

てんにんじようじゆうまん

おんりんしよーどうかく

しゆーじよーほうしよーごん

うーまんだーらーけー  
さんぶつきゅうだいしゅー  
がーじょうどーふーきー  
にーしゅーけんしやうじん

雨曼陀羅華  
散仏及大衆  
我浄土不毀  
而衆見烧尽

うーふーしゅーくーのう  
にょーぜーしつじゅうまん  
ぜーしよーざいしゅーじよう  
いーあくこういんねん

憂怖諸苦恼  
如是悉充滿  
是諸罪衆生  
以悪業因縁

かーあーそうぎーこう  
ふーもんさんほうみやう  
しよーうーしゅーくーどく  
にゅーわーしちじきしやー

過阿僧祇劫  
不聞三宝名  
諸有修功德  
柔和質直者

そっかいけんがーしん  
ざいしーにーせつほう  
わくじーいーしーしゅー  
せつぶつじゅーむーりよう

則皆見我身  
在此而説法  
或時為此衆  
説仏寿無量

くーないけんぶつしやー  
いーせつぶつなんちー  
がーちーりきにょーぜー  
えーこうしやうむーりよう

久乃見仏者  
為説仏難値  
我智力如是  
慧光照無量

じゅーみようむーしゅーこう  
くーしゅーこうしよーとく  
にょーとーうーちーしやー  
もつとーしーしやうぎー

寿命無数劫  
久修業所得  
汝等有智者  
勿於此生疑

とうだんりようようじん  
ぶつごーじつぶーこー  
にょーいーぜんほうべん  
いーじーおうしーこー

当断令永尽  
仏語実不虛  
如医善方便  
為治狂子故

じつざいにーこんしー  
むーのうせつこうもう  
がーやくいーせーぶー  
くーしよーくーげんしやー

実在而言死  
無能説虚妄  
我亦為世父  
救諸苦患者

いーほんぶーてんどう  
じつざいにーこんめつ  
いーじょうけんがーこー  
にーしやうきやうしーしん

為凡夫顛倒  
実在而言滅  
以常見我故  
而生憍恣心

ほういつじやくごーよく  
だーおーあくどうちゆう  
がーじょうちーしゅうじよう  
ぎやうどうふーぎやうどう

放逸著五欲  
墮於悪道中  
我常知衆生  
行道不行道

ずいおうしよーかーどー  
いーせつしゅーじゅーほう  
まいじーさーぜーねん  
いーがーりようしゅーじよう

随応所可度  
為説種種法  
每自作是念  
以何令衆生

とくにゅうむーじようどう  
そくじようじゅーぶつしん  
そくじようじゅーぶつしん

得入無上道  
速成就仏身

『妙法蓮華經』の第十六 「如来寿量品」は最初の一句が「自我得仏来」ではじまっているために「自我偈」とも呼ばれています。お釈迦様は人々を救済するために仮に地上に姿を現わされましたが、本来は永遠の昔から悟りを開いておりお釈迦様の命は永遠であるという立場が取られています。そしてそのお釈迦様のことを久遠実成(永遠の昔から仏となっている)の釈迦牟尼仏と呼んでいます。そのことについて述べているのがこの第十六章です。法華経は全てのお経の中の骨髄であり、自我偈はその法華経二十八品の中の魂です。とても大切なお経なので、法要では必ず読経します。

妙法蓮華經 如来神力品第二十一

みようほうれんげきよう

によらい じんりき ほん だいにじゆういち

爾時に一佛。上行等の一菩薩。

大衆に一告げたまわく。諸仏の一神力は

是の一如く。無量無邊不可思議なり。

若し我の一の神力を一以て。

無量無邊百千萬億阿僧祇劫に於て。

屬累の一爲の一故に。此の經の一功徳を

説かんに。猶つくす一と一能わじ。

要を一以て一之を一言わば。如来の一一切の

所有の一法。如来の一一切の一自在の一神力。

如来の一一切の一秘要の一藏。如来の一一切の

甚深の一。事。皆この經に於いて一宣示顯説す。

是の故に一汝等。如来の一滅後に於いて。

應當に一。一心に一受持。讀誦し。解説。

書寫し。説の一。如く一修行すべし。

所在の一。國土に。若しは一受持。讀誦し。

解説。書寫し。説の一。如く一修行し。

若しはも一經卷所住のきようがんしゆーじゆう一處あところーらん。

若しはも一園のその一中になか一於いておも。

若しはも一林のはやしー一中になか一於いておも。

若しはも一樹のき下にもと一於いておも。

若しはも一僧坊にそうほう一於いておも。

若しはも一白衣のびやくえー一舎にいえてあつも。

若しも一はでんどう殿堂にあつ一在あつつてあつも。

若しも一はせんごつこうやー山谷曠野せんごつこうやーにてあつも。

是この中になか一皆塔をみなーとう一た起たててくーよう一供養くーようすべし。

所以ゆえはいーかん一何まさ當まさにし一知しるべし。

是この處ところーはすなわー一即こーちこー一是こーれどうじよう一道場どうじようなり。

諸佛しよぶつーここにお一於あーのくたーらーさんみやくさんほーだいいてえー一阿耨多羅三藐三菩提えーをえー得えー。

諸佛しよぶつーここにお一於ほうりんいててん一法輪ほうりんをてん一轉てんじ。

諸佛しよぶつーここにお一於はつねーはんてはつねーはん一一般涅槃はつねーはんしたはつねーはんもう。

法華經二十八品の中で「如来」と名前についているお経は二つだけです。一つは如来寿量品でありもう、一つがこの如来神力品です。そのことから、この神力品は寿量品と非常に大きなかわりがあるのだということがわかります。一言で云えば寿量品は仏さまの永遠のいのちを説いたものであり、神力品はその永遠のいのちをもった仏さまの働きについて説いています。お釈迦様がなくなつた後の修行について経文では、法華經を受持、読誦、解説、書写しなさいと説いています。しかも、その修行は一心に行わなければなりません。この法華經を信じて修行する者がいる処では、園の中でも、林の中でも、樹の下でも、寺院の僧房の中でも、在家の人の家でも、あるいは立派な殿堂であっても、さらには山谷、広野においてでも、塔を建てて供養しなさいと説いています。



妙法蓮華經 陀羅尼品第二十六

安爾あに 曼爾まに 摩禰まね 摩摩禰ままね 旨隸しらい 遮梨第しやりてい 棄竿しゃみや

棄履しゃび 多喜たい 羶帝せんてい 目帝もくてい 目多履もくたび 沙履しゃび 阿喜沙履あいしゃび

桑履そうび 沙履しゃび 叉爰しゃえい 阿叉爰あしゃえい 阿耆膩あぎに 羶帝せんてい 棄履しゃび

陀羅尼だらに 阿盧伽婆娑あろきやばしや 簸蔗毘叉膩はしゃびしゃに 禰毘剃ねいびてい 阿便漉あべんた

邏禰履剃らねいびてい 阿直漉波隸輸地あたんだはれいしゆだい 急究隸うくれい 牟究隸むくれい

阿羅隸あられい 波羅隸はられい 首迦差しゆきやし 阿三磨三履あさんまさんび 仏駄毘吉利ほつだびきり

宴帝じつてい 達磨波利差帝だるまはりしてい 僧伽涅瞿沙禰そぎやねくしゃねい 婆舍婆舍輸ばしゃばしやしゆだい

曼漉邏まんたら 曼漉邏叉夜多まんたらしややた 郵樓漉うろた 郵樓漉隱舍略うろたきようしやりや

悪叉邏あしやら 悪叉治多治あしやたや 阿婆盧あばろ 阿摩若あまにや 那多夜なたや

確隸ざれい 摩訶確隸まかざれい 郁枳うつき 目枳もつき 阿隸あれい 阿羅婆第あらはてい

涅隸第ねれてい 涅隸多婆第ねれいたはてい 伊緻株いちに 韋緻株いちに 旨緻株しちに

涅隸滑株ねれいちに 涅梨滑婆底ねりちはち 伊緻株いちに 韋緻株いちに 旨緻株しちに

阿犁あり 那犁なり 傾那犁となり 阿那盧あなろ 那履なび 拘那履くなび

阿伽禰あきやねい 伽禰きやねい 瞿利くり 乾陀利けんたりに 旗陀利せんたりに 摩牙耆まとうぎ

常求利じようくり 浮楼莎株ぶろしやに 穩底あつち 阿提履あていび 伊提履いでいび 泥履でいび

伊提履いでいび 伊提涅いでいびん 伊提履いでいび 阿提履あていび 伊提履いでいび 泥履でいび

泥履でいび 泥履でいび 泥履でいび 阿提履あていび 伊提履いでいび 泥履でいび

多醯たけい 多醯たけい 多醯たけい 兜醯とけい 傾醯とけい 得無生法忍とくむしようほうにん

# 日蓮聖人御妙判

ごみょうはん

日蓮聖人が書き遺された  
あなたへのメッセージ

祖訓ともいいます。日蓮聖人の書き遺された論文やお手紙を総称して「御妙判」とよびます。数ある御妙判の中から、その法要に適したものを  
選びお唱えします。

## 観心本尊抄

かんじんほんぞんしょう

今本時の娑婆世界は三災を離れ四劫を出でたる  
常住の浄土なり 仏既に過去にも滅せず未来にも  
生ぜず所化以て同体なり此れ即ち己心の三千具足  
三種の世間なり

文永十年（一一七三）成立。観心と本尊は妙法蓮華経として具現されているとして南無妙法蓮華経と唱えることで仏果の成就を得ると説かれています。日蓮五大部のひとつ。正式には如来滅後五百歳始観心本尊抄とよびます。

## 報恩抄

ほうおんじょう

日蓮が慈悲曠大ならば南無妙法蓮華経は万年の外  
未来までもながるべし 日本国の一切衆生の  
盲目をひらける功德あり 無間地獄の道を  
ふさぎぬ此の功德は伝教天台にも超へ  
龍樹迦葉にもすぐれたり 極楽百年の修行は  
穢土一日の功に及ばず 正像二千年の弘通は  
末法の一時に劣るか 是はひとへに日蓮が  
智のかしこきにはあらず時のしからしむるのみ

建治二年（一一七六）七月、先月に遷化された日蓮聖人の師僧でもある、清澄寺の道善坊の追善のために執筆されたといわれています。

# 唱題 しょうだい

合掌してお題目『南無妙法蓮華經』をお唱えしましょう。  
この唱題こそが日蓮宗の「正行」です。

## 南無妙法蓮華經 なむみょうほうれんげきよ

### 宝塔偈 ほうとうげ

持つことが難しい法華經の教えをお受けする功德を表す偈文。信じることの難しさと大切さを説くお経です。

此經難持 しきょうなんじ 若暫持者 にやくざんじしや 我即歡喜 がそくかんぎ 諸仏亦然 しよぶつやくねん 如是之人 によぜしーにん  
 諸仏所歎 しよぶつしよーたん 是則勇猛 ぜそくゆうみょう 是則精進 ぜそくしようじん 是名持戒 ぜみようじかい 行頭陀者 ぎょうづだーしや  
 則為疾得 そくいしつとく 無上仏道 むじようぶつどう 能於來世 のうおーらいせー 誦持此經 どくじしきよ 是真仏子 ぜしんぶつしー  
 住淳善地 じゅうじゆんぜんち 仏滅度後 ぶつめつどーごー 能解其義 のうげごーぎ 是諸天人 ぜしよーてんにん 世間之眼 せけんしーげん  
 於恐懼世 おくいーせー 能須臾說 のうしゆーゆーせつ 一切天人 いっさいてんにん 皆應供養 かいおうくよう

### おつとめ回向文 えこうもん

日々のお勤めでお唱えする回向文です。自宅の仏壇前での  
お経の最期にお唱えしましょう。

謹み敬つて上來あつむる所の功德 つつしうやま じようらい ところ くとく 南無久遠實成 なむくおんじつじよ  
 本師釈迦牟尼仏 ほんし しやかむにぶつ 南無一乘妙法蓮華經 なむいちじよみよほうれんげきよ 南無末法 なむまつぽう  
 有縁の大導師高祖日蓮大菩薩 うえん だいどうし こうそ になれんだいほさつ 宗門歴代如法勲功 しゅうもんれきだいによほうくんこう  
 の先師に回向し せんし えこう 天上地界護法の善神等に法樂し てんじようちかいごほう ぜんじんとう ほうらく  
 奉る たてまつ 仰ぎ願わくは あお ねが 一天四海皆帰妙法 いつてんしかいかいきみよほう 末法萬 まつぽうまん  
 年廣宣流布 ねんこうせんるふ 天長地久國土安穩 てんちようちきゆうこくどあんのん 五穀成成就萬民 ごこくじようじゆ ばんみん  
 安樂 あんらく 家内安全息災延命 かないあんぜん そくさいえんめい 子孫長久家門繁榮 しそんちようきゆうかもんはんねい 某 それがし  
 およ 及び家内中の面々 かないじゆう めんめん 無始以來六根懺悔罪障消滅 むしらい ろつこんさんげさいしようしよめつ  
 國に謗法の音なくんば萬民数を減ぜず くに ほうほうのこえ ばんみんかず げん 家に讚經の いえ さんぎよ

勤めあらば七難必ず退散せしめん。又願わくは  
當家先祖代々一家一門の諸精靈。総じては法界海  
有無両縁の諸精靈。坐寶蓮華成等正覺。妙法経力  
即身成仏。願以此功德普及於一切。我等與衆生  
皆共成仏道。南無妙法蓮華経。

### 追善供養 回向文

年忌・忌日等にあたり、特別回向をする時にお唱えする  
回向文です。通常の法事で導師が最後に独唱します。

上來鳩るところの功德をもつて今日○○忌に相値  
処の○○靈位別しては○○家先祖代々の諸精靈に  
回向し報地を厳浄す。仰ぎ願くは一切の三寶哀愍  
加持し給え。専ら祈るところは○○靈位。白業縁起

の寶土に於いて回向供養の法樂を受け。無始の  
重障を滅除し。親子諸仏を見奉ることを得。妙法  
を聴受し。三因を開発し。三徳を資成し。この寶  
乘に乗じて普く法界に遊び。疾く道場に趣いて仏  
知見を開き。寶蓮華に坐して等正覺を成ぜんこと  
を。妙法経力即身成仏。乃至法界平等利益。  
南無妙法蓮華経。

### 四誓

四大菩薩である上行菩薩、無辺行菩薩、淨行菩薩、安立行菩薩が仏道を  
求めるときに立てた四つの誓願です。法要の終わりにお唱え誓います。

衆生無辺誓願度 煩惱無數誓願断  
法門無尽誓願知 仏道無上誓願成

平成三十年十月 初版発行

編集 熊澤 吏樹  
発行人

発行所

福聚山 妙輪 寺

神奈川県中郡大磯町大磯一五八二